

当報告の内容は著者の著作物です。

催事の名称：AA 研フォーラム

日時：平成 24 年 6 月 14 日（木曜日）午後 1 時 30 分より午後 3 時 30 分

場所：AA 研 304 室

発表者：荻谷康太（AA 研所員）

発表題目：「アラビア語著作から読み解く西アフリカ・イスラーム知識人の宗教的・知的連関網」

本発表では、互いに関連する 2 つの研究課題に関する報告を行うため、全体を前半と後半とに分ける 2 部構成を採用した。第 1 部では、西アフリカから北アフリカ、西アジアへと広がる、イスラーム知識人達の連関網を論じた拙著『イスラームの宗教的・知的連関網：アラビア語著作から読み解く西アフリカ』（東京大学出版会、2012 年）の内容を報告し、第 2 部では、現在発表者が進めている、文字資料の分析に基づく西アフリカの諸信仰体系に関する研究の内容を報告した。

まず第 1 部では、上述の拙著の根幹をなす目的、3 つの問題設定（①スーフィー教団的枠組みに基づく認識の相対化、②サハラ以南アフリカ北西部と他地域との連関、③アラビア語著作の分析に基づく、西アフリカ・イスラームに関する情報の蒐集・整理・蓄積）、方法、についての説明を軸に、本書全体の流れを説明した。また第 2 部では、文字資料の分析を礎に西アフリカの諸信仰体系の歴史的諸相を読み解く研究について、第 1 部の研究から本研究へと至った経緯や、本研究の背景・目的・方法を説明し、更に 15-16 世紀のソンガイ帝国の王権を取り巻いた現地信仰体系に関する具体的な考察を行った。

質疑応答においては、まず第 1 部に関して、イスラーム知識人達の連関網はどの程度図示できるものなのか、西アフリカから北アフリカや西アジアへの知識の伝播は見られるのか、連関網を通じて伝播した知識や思想に関して更なる具体的研究を進める場合、どのような思想や知識に関する事例研究が可能か、他地域で見出される連関網との比較研究は可能かなどの点で議論がなされ、第 2 部に関しては、「イスラーム」と「非イスラーム」とを 2 項対立的に捉えることの問題、ムスリムが著したアラビア語資料群から現地信仰体系の様相を読み解こうとする際に生じ得る、訳語の選択や文脈の捉え方などに関する種々の問題、時代ごとに異なる資料の多寡に纏わる問題、アラビア文字を使った現地語資料（アジャミ資料）の利用の可能性などに関する議論がなされた。